

喪祭式

全

□ 9
3336



9
3336

官許喪祭式

弘道館藏版



喪祭式

喪禮略節

去五味均平藏

喪禮ノ儀節此ニ其大略ヲ舉ク其繁簡
 詳略ハ祿ノ厚薄家ノ有無ニ隨テ斟酌
 損益アルヘシ
 初終病者命終ラハ内外ヲ靜ニシテ尸ヲ表
 坐敷ニ遷シ家ノ主人ニ非ル者ハ常南首ニ
 臥サシメ其人平日著スル所ノ禮服ヲ襲ヒ
 尸ノ見ヘサルヤウニ屏風ニテナリトモ掩

喪祭式

ヒ才クヘシ復ハ古禮ナリ今世俗ニ其意小
テ行フ心次
第十ルヘシ

設魂帛右ノ屏風ノ外ニ机上ニ載セ置ク簡便

ニ從フモノハ魂帛ヲ用ヒサルモ可也

書遺言其人遺言アラハ哀ヲ抑ヘテ筆記ス

ヘシ

設奠死者ノ平常用タル食器ニ何ナリトモ

食物ヲ盛テ尸ノ前ニ置クヘシ

設香案

易服喪服ヲ著シ
藤布無紋ノ上下ヲ著ス此

著スヘシイロノ衣ヲ服スル

立喪主死者ノ長子喪主トナル父存生ノ内

ニ母ノ喪アレハ父喪主ニテ禮ヲ行フ子ハ

父ニ從テ哭ス父存生ニテ妻子ノ喪アル者

モ父喪禮ノ事ヲ行フ父死後兄弟ノ妻子ノ

喪アレハ兄弟ノ内互ニ妻子ノ喪主トナル

兄弟ノ死ルニ其子幼少ニテ喪ヲ主トル

能ハサル時ハ兄弟ノ内喪ヲ主ル兄弟死テ

子ナキ時ハ兄弟ノ内長者ヲエラシテ喪主トス婦人死スルニ夫モナク子モナキ者ハ夫ノ兄弟其喪ヲ主ル兄弟ナクハ夫ノ親類ノ内ヲ喪主トス妻ノ親類ハ喪主トセス父母ノ喪ニハ其妻モ夫ト同シク喪ヲ主ル故ニ是ヲ主婦ト云
護喪^ス主人ハ己力衰ヲ盡シ送葬ノ事ニノミ心ヲ專ニメ萬事ヲ抛テ家僕又ハ親姻近鄰ナトノ中ニテ護喪ノ人ヲ立テ賓客ノ應對

貨財ノ出入ヨリシテ都テ雜事ヲ取計フヘシ厚祿ノ家ハ主賓^{賓客ノ應對}等ヲ司ル相禮^{禮式等}司書^{都テ書キ}司貨^{貨財ノ出}等ノ役々ヲ分テ設クヘシ
治棺 棺ハ送葬ノ具ノ中第一ニ大切ナルモノナル故心ヲ用テ制スヘシ^{五六十年者ハ棺ノ板ヲ貯スヘ置}沐浴 沐浴終ラハ^{沐浴ノ禮アレトモ尸ヲ動}ア^{拭ヒタルハ巾ニテ面ヲ輕}其人常用ノ禮

服ヲ著セ蒲團ノ上ヘナホシ洗米ヲ紙ニ包テ口邊ニ置キ幘目巾ニテ面ヲ覆ヒ握手巾ニテ手ヲ包シ主人以下焼香一拜

納棺

尸ノ傍ニヨセ尸ヲ納レ若存生ノ時ノ齒髪ナトアラハ棺中へ紙包ノ洗米ヲ口邊ニ入レ大小刀ノ形ヲ竹ニテ作り棺中ニ入ヘシ形ノ細工ヲ用フヘカラス刀物ノ類ハ用フヘカラス銀銅鐵ノ類武器ノ類有用ノ品一切入ヘカス

靈座

其人生時ノ禮服ト刀劔トヲ卓ニ載セ

魂帛ヲ倚セ掛テ棺前ニ置キ其前ニ卓ヲ置キ香爐香合ヲ置キ燭臺ヲ置キ右ノ方ニ銘旌ヲ置キ酒茶菓子ヲ薦メ主人以下焼香一拜ス

喪次 父母ノ喪ニハ靜ナル一ト間ニ居テ葬

ノ事ニ非レハ人ト應對セス喪次ニハ華麗ノ物ナキヤウニス

朝夕奠 命終ノ日ヨリ葬ニ至ルマテ毎日朝

夕ニ平常ノ如ク膳ヲ薦ム華麗ノ器物ヲ用ヒス主人哀素ノ

心アリ
故ナリ

擇葬地 葬ノ地ハ高燥ノ地ニシテ後世マテ

發掘ノ患ナキ處ヲ擇ヘシ古墳ナリトモ人

ノ墓ヲ發クヘカラス

祭土地之神 告者祝者執事何レモ吉服シテ

告者上香シ酒ヲ斟シ地ニ傾ケ酒ヲ獻シ祝

者祝文ヲ讀ミ告者拜シ祝者祝文ヲ燒ク其儀

節ハ人ノ貴賤祿ノ厚薄ニヨリテ一定シ難

キユハ此ニ載セス下ノ條ヲ見合スヘシ○

土神祭ヲ晡時ニ及テスル○

穿墳 穴ハ深キヲ善トス灰隔ヲ作ルトハ家

ノ有無ニ從フヘシ灰隔トハ棺ト土トノ間

石灰炭ニテ隔ルナリ墳ノ底ニ炭ノ末ヲ厚

サ一二寸程鋪キ其上ニ石灰細沙黃土ヲマ

セ合セタルヲ鋪テツキ固メ四方ヘ薄板ヲ

入レテ其外ヘ土ヲモツキカタメ置キ其中

へ棺ヲ下シ棺ト板トノ間ヲ炭ト石灰トニ

テツメ棺ト上モ石灰炭ヲ入テ蓋ヲシテ其

上ヘ土ヲ下スナリ

刻誌石止二片ノ石十八姓名ヲ刻ミ一ハ誌銘
 ヲ刻ミ二片ヲ合セテ下スヘシ小祿貧家ニ
 ノハ一片ニテモ可ナリ又瓦ニテ制スルモ
 可ナリ瓦ハ燒カサル以前ニ文字ヲ彫リ藥
 燒土燒等ニシテ埋ムヘシ
 又誌石ナキモ苦シカラス
 作主合祠堂ヲ別ニ建テ祭ルモノハ神主ヲ制
 シ室堂ノ中ニテ祭ルモノハ神主神位喪主
 ノ心ニ任スヘシ神位ハ陷中ナ
 朝祖出棺ノ前ニ魂帛ヲ奉ケテ祠堂ニ至リ
 祖先ノ神ニ別ル一ヲ告又本ノ如ク靈座

ニ置ク魂帛ナキ時ハ靈座ニ置ク
 遺奠 飯酒干魚茶菓ヲ薦メ主人以下上香シ
 テ拜ス小家ハ是ヲ略ノ題主ノ時
 題主神主ノ文字ハ豫メ認メ主ノ字一畫ヲ
 殘シ置キ神位ナレハ神ノ字 出棺ニ臨テ主
 人酒ヲ薦メテ主ノ字へ畫ヲ加へ上香拜祝
 へシ此時ニ讀ムモ其便ニ從フ
 發引 出棺ノ前ニ留守ノ者上香拜アルヘシ
 高張ノ數各格式ニ從フヘシ香爐銘旌神主

ノ箱棺前ニ立ヘシ貴者ハ貴臣ニ持タセ親
 人持ツモ其外ノ從者生時ノ如クスヘシ主
 人ハ貴者ト雖モ必徒跣ニテ歩行スヘシ歩
 ナリ難キ病人ノ外ハ馬駕籠用ユハカラス
 格式ニヨリテ駕籠ヲワラセ馬ヲ牽スルハ
 ラ苦レカ

及墓棺ヲ上香堂ニ居工題主ノ祝文ヲ讀ミ

終テ是ヲ燒ク祝文ヲ讀ミ終テ壙中ニ埋ル
 テ讀ムモ主人以下上香拜
 可ナリ
 窆棺ヲ靜ニ下シ棺ノ上へ魂帛銘旌ヲ入レ

主人以下心ヲ付ケテ壙中ヲ視ヘシ灰隔ア
 ル者ハ灰炭等ヲヨク築キカタメ土ヲ少シ
 覆テ誌石ヲ下シ後年ニ尸柩ヲ壓サハ復土
 築墳終テ後主人以下神主ノ後ニ從テ歸ル
 へシ
 反哭家ニ歸テ神主ヲ靈坐ニ安置シ主人以
 下俯伏シテ哀ヲ舉ク神主以下不出テ拜
 虞祭神主ヲ出シ上香一拜酒ヲ酌テ神ヲ降
 シ拜シテ神ニ參ル饌ヲ進メテ初獻ノ酒ヲ

進メ祝文ヲ讀ミ拜ス肴ヲ進テ肴ハ乾魚亞
 獻拜又吸物ヲ進テ肴ニテモ又外ノ終獻拜
 盞中ノ酒ヲ酌ミ添テ拜シ主人以下出テ待
 ツテ少頃シテ又入テ饌ヲ徹シ後ニ茶ヲ進ル
 十モ可テ茶ヲ進テ拜シ徹シ祝文ヲ燒ク家小祿貧
 ノ禮ヲ成スト能ハサルモノハ其禮ヲ略ス
 節祝文下ニ見ユ
 小祥 十三月ニシテ忌日ノ祭ナリ儀節虞祭
 ニ同シ國制一年ノ喪服此時ヲ限リトス

遷主ス 小祥ノ後主人公事ニ從ハントスル時
 ニ至テ祖先ノ神へ酒食ヲ進テ遷主ノ事ヲ
 告ケ次ニ新主へ告テ祭終テ神主ヲ祠堂ニ
 納ム是喪祭ヲ變シテ吉祭トナルノ初ナリ
 古ハ虞祭ノ後ニ卒哭ノ祭アリテ吉祭ニ變
 シ是ヨリ玄酒ヲ用ヒ次ニ拊祭アリテ新主
 ヲ其祖ニ拊シ大祥ノ後ニ新主ヲ祠堂ニ遷
 ストナレトモ今是ヲ略ス○儀節祝文下ニ
 見ユ
 大祥 二十五日ノ忌日ナリ儀節虞祭ニ同シ
 古禮ハ大祥ノ後新主ヲ祠堂ニ遷シ又一月
 ヲ隔テ、禫ノ祭アリ是ヨリ始テ酒ヲ飲ミ

時ニ開カス忌日高曾ニ祖ハ右ニ准メ略ス平
 二輕ク祭ルヘシ高曾ハ祖ヨ
 士ハ禰一世ヲ祭リ祖ハ禮ヲ略シ高曾ハ祖ヨ
 リモ一等略スヘシ何レモ五世以上ハ神主ヲ
 箱ニ納メ置キ忌日ノ輕キ品ヲ進ムル下
 干物酒主人ノ心ニ任スヘシ其外ノ旁親ト
 ノ類主人ノ心ニ任スヘシ其外ノ旁親ト
 姉妹伯叔ノ父姑類殤トハ古禮ニハ十九ヨリ十六
 從弟十トノ類殤トハ古禮ニハ十九ヨリ十六
 リ十トマテヲ中殤トシテ長殤トシテ十五ヨ
 下殤トス今世ハ男子未タ元服セサル者女子
 未タ嫁セサル者此三殤ニ當ルヘシ八歳以昭
 下ヲ無服ノ殤トス今ノ殤七歳未滿是ニ當ル昭
 穆ノ序ヲ以テ其祖ノ室ニ祔ス室ニ祔ス難キモノ祔

箱ナトニ納テ他ノ親屬遠クシテ主人ニ喪服
 所ニ置モ可ナリ
 ナキモノハ祔スルニ及ハス日箱ニ納メ置キ忌
 任スヘシ
 先祖ノ祭ヲスルハ其本家ニ限り分家ノ者ハ
 其祭日ニ本家ニ往テ祭ヲ助クヘシ本家賤ク
 十雖モ同分家ノ祖トナリタル者ヨリ以下ハ
 斷ナリ
 各分家ノ方ニテ祭ルヘシ祠堂ノ制堂中ニ三
 室ヲ設ケ少ク一室ヲ中ノ室ニ始祖ノ主ヲ藏
 ノ其左右ニ高祖曾祖考妣四位ヲ昭穆ヲ以テ

列レ東室ヲ昭トシ西室ヲ穆トス其家ノ元祖
 大夫トナルモノヲ始祖トシ其子ヲ昭トシ孫
 ヲ穆トス是ヨリ以下一代ハ昭一代ハ穆ト代
 ヲ推ス此例ニ父昭ニ當レハ父東祖西ナリ父穆
 ナレハ父西祖東ナリ三室トモ二千石以上ハ
 布ノ帳アリ簾ナレ戸ハ彫物等用ユヘカラス
 兩楹ナレ神主ノ櫛禱アリ櫛ノ扉ニ格子ヲ用
 以テ用ヒサル正位ニテモ覆衣鞞ナレ祠
 堂ノ兩旁ニ遺物祭器ヲ藏ル所アルヘシ千石
 以下ハ帳櫛禱ナレ若シ祠堂ヲ略制ニスル者

小三室ヲ設ケス棚ヲ設ケテ室ニ代フヘシ帳
 唐戸ヲ用ヒス祠堂ナキモノハ正寢ニ書院等
 ヲ棚ヲ設ケテ屏ヲ作リ遮隔スハ薄板ニ祭器遺
 物ハ棚ノ下ニ藏ムヘシ其制作ハ祿ノ厚薄家
 ノ有無ニ從フヘシ小祿貧家ナト能ハサル者
 ハ神位ヲ藏ルハカカリノ所ヲ構ヘ置キ其中ニ
 テ幾世ヲモ併セ祭ルトモ又祭ノ時ニ神位
 ヲ出シテ机上トニ載スルモ各其便ニ從フ置
 キ祭ノ時其儘机上ニ載スルモ各其便ニ從フ置
 神主ノ制式ノ如シ祠堂ナキ者ハ略制ニスルテ

神位トスル下其人ノ心次第ナルヘシ五世以上其親盡タルハ跽ヲ去テ箱ニ納メ置クヘシ別ニ跽ヲ作り置キ忌日ニハ主ヲ旁親兄弟伯出シテ跽ノ上ニ立テ、拜スヘシ妾母等ヲ云々卑幼孫子姪男等ハ神主神位ヲ作ラス薄板ニ姓名ヲ書シテ箱ニ藏メ置忌日ニハ出シテ拜ス輕ク酒食ヲ薦ル下人々ノ好ニ任スヘシ其長子元服シタル者死スル時ハ家ノ分限ニヨリテ神主神位ヲ製シテ可ナリ以前ヨリ神主ナクシテ今新ニ作ル者ハ父母ハ式ノ

如クニ作ルヘシ祖父以上ハ薄板ニ書シテ藏置ヘシ長キ跽ヲ作り置キ排列ノ時ハ幾枚ニ出シテ拜スヘシ表ノ中ニテ外面ニ表祭ノ禮時祭ヲ重シトス春夏秋冬ノ仲月ヲ用至秋分冬至ニテモ又別三世ヲ祭ル者ハ始祖ニ日ヲ擇下モ可ナリト祖禰ノ神主ヲ開キ降神參神進饌三獻侑食闔門啓門受祚辭神納主等何レモ式ノ如シ高曾ハ進饌ノ時ニ一獻一拜シ茶菓ヲ進ル時一拜シテ侑食等ナシ其外ノ祔位ハ主人ニ喪服

ノ者子弟ヲシテ分獻セシムヘシ酒ハカニ世
 ヲ祭ル者ハ祖禰ヲハ式ノ如クニ祭リ高曾ハ
 禮ヲ略シ祔位ニ分獻スルノ前ノ如シ始祖ノ
 室ハ開カス一世ヲ祭ル者ハ禰ハ式ノ如クシ
 祖ハ前ニ准シテ略シ高曾ハ祖ヨリモ略ス其
 他ハ右ニ同シ何レモ其品味器皿ハ祿ノ厚薄
 家ノ有無ニ從テ斟酌スヘシ
 忌日ノ祭ハ三世ヲ祭ル者始祖ト祖禰ヲ時祭
 ノ如クシ二世ヲ祭ル者ハ祖禰一世ヲ祭ル者

ハ禰ヲ時祭ノ如クシ其外ヲ略スルノ何レモ
 前ノ例ニ准ス五世以上ト祔位ノ喪服アルハ
 朔望ニ准メ輕キモノヲ薦ムヘシ小家ハ略ス
 ルト心ニ任
 スヘシ
 正月元日熨斗鮑或ハ田鏡餅雜煮等其家ニテ
 用ル所ノ祝ノ品ヲ進メ酒茶菓子ヲ進テ拜ス
 へシ二日三日ハ雜煮元日ノ例ニ准シ他ノ品
 ニテモ
 可十酒茶菓ヲ進メ拜ス
 毎月朔望洗米魚其家ニテ用ル所ノ飯酒十五
 羹等ニテモ可十リ

酒ナキモ 茶菓ヲ薦テ拜ス歳暮是ニ同シ立春ハ祭
 可ナリ 人日 東上巳 端午 七夕 重陽 玄猪
 等ハ當日ノ祝ノ品ヲ薦ム其儀朔望ニ同シ
 墓祭 三月上旬カ又ハ七月朔前後ノ日ヲ用
 ヘシ其人ニ因テ宜キヲ量リ酒干魚等ヲ供ス
 へシ

一 喪祭儀節
 一 時 奉 土 神 祭
 一 告 塚 墳 墓 ヲ 永 夕 守 護 セ ン 一 一 土 地 ノ
 一 神 ニ 祈 ル ナ リ 此 祭 式 ニ 預 ル 者 喪
 一 家 へ 不 至 宵 日 ヲ リ 火 ヲ 改 メ 沐 浴
 一 祝 者 吉 服 執 事 上 同 各 盥 漱
 一 執 事 供 物 机 ヲ 設 ク
 一 執 事 香 案 ヲ 設 ク

一 祝者 吉服 執事 上 同 各盥漱
 一 執事 供物机ヲ設ク
 一 執事 香案ヲ設ク

一執事二人燭臺ヲ火點香案ノ左右ニ置

一執事祝文机ヲ持出香案ノ西ニ置

一執事土器ニツ重子片酒注片木ニ干魚同上干

菓子同上ヲ用意ス

小身貧家ハ土器酒注ノニテ肴茶菓子

ナキモ可ナリ其場處狹隘ナラハ品々ヲ

初ヨリ机上ニ置モ可ナリ

一執事祝文ヲ片木ニ載祝文机上ニ置

一執事火爐火箸付ヲ祝文机ノ西ニ置

一此時祝者ヨリ陳設整夕ルコトヲ告者ニ

申ス木ハ六ノ祝文机上ニ置告者一拜

一告者吉服盥漱香案ニ就テ上香土西ニ置

一執事肴ヲ持出告者受テ机上ニ置

一執事土器ニツ重子ヲ取告者以左ニ跪

一執事酒注ヲ取告者以右ニ跪

一告者土器ヲ取酒ヲ受香案以前ノ地上ニ

一樽其土器ヲ香案上香爐ノ東方ニ置キ

一樽直ニ起テ供物机前ニ坐ス

- 一 執事土器ヲ取告者ノ左ニ跪
- 一 執事酒注ヲ取告者ノ右ニ跪
- 一 告者土器ヲ取酒ヲ受ノ片木ニ机上ニ供ス
- 一 執事酒注ヲ持テ退ク
- 一 祝者祝文ヲ片木ノマ、机上ヨリ取テ告者
- 一 神ノ左ニ跪キ祝文ヲ讀ム了テ字頭ヲ我方
- 一 告ニテ祝板ノマ、香案上西方ニ載セ
- 一 退片木ハ元ノ祝文机上ニ置告者一拜
- 一 執事菓子ヲ持出告者受テ机上ニ置告拜

一 執事菓子酒肴ヲ徹ス

主人以下祝者執事並族長職列
 坐知禮者ヲ以告者トス
 神主ノ文字ヲ書ス
 本堂基ヲ到ルテ
 八木下ノ上ニ
 難カレハ出指ノ前
 畢竟權宜ナリ

一 持小身貧家ハ土器酒注ノヨニテ其外ノ品
ヲ略スルモ可ナリ

一 執事机上ニ魂帛ヲ載タルヲ棺ノ前ニ置

一 執事神主ヲ載スル机ヲ魂帛机ノ前ニ置

一 執事土器菓子等ヲ載ル机ヲ神主机ノ前ニ

置

一 執事香案香爐香合ヲ載ヲ供物机ノ前ニ置

一 執事二人燭臺火點ヲ香案ノ左右ニ置蠟燭油好ニ

仕白晝ナレハナキモ可ナリ

一 執事祝文机ヲ香案ノ西ニ置

一 祝者神主ヲ机上ニ置

一 祝者魂帛ヲ棺へ寄セカケ置

一 執事祝板祝文ヲ張片木ニテモ可ナリ足打ニ載ヲ香案ノ西ニ

置タル祝文机ノ上ニ置 此時贊者主人

へ上香アルヘシト申ス

一 主人喪服香案前ニテ上香了テ神主机ノ前

ニ進ミ坐ス

一 執事筆硯ヲ主人ノ右ニ置

一祝者神主ヲ取り主人ノ左ニ跪キ神主ノ蓋
 ヲ取り座ヨリ出シテ神主ノ跗ヲハツシ
 先ツ陷中ノ方ヲ主人ニ進メ主人受テ王
 ノ字ニ點ヲ加ヘテ主ノ字トナシ祝者ニ
 授ク祝者受テ机上ニ置キ又粉面ヲ主人
 ニ進メ點ヲ加ヘ終テ祝者ニ授ク祝者受
 テ陷中粉面ヲ合セ跗ニ插ミ神坐ニ入レ
 神主机上ニ奉安シテ魂帛ヲ箱ニ藏メ蓋
 ヲ掩フ

一執事筆墨ヲ引キ入ル
 一主人退テ供物机ノ前ニ坐ス
 一執事干魚ヲ持チ出主人受テ机上ニ置ク
 一執事土器ヲ片木トモニ取主人ノ左ニ跪ク
 一執事酒注ヲ取り主人ノ右ニ跪ク
 一主人土器ヲ取り酒ヲ受片木ニ載供物机上
 ニ供シ香案前ニ退ク
 一執事酒注土器ヲ持チ共ニ退ク
 一祝者祝文ヲ足打ニ載捧テ主人ノ左ニ跪此

- 一 讀ム畢テ字頭ヲ我方ニナシ香案ノ上
- 一 西ノ方ニ置キ足打ヲ持テ退キ祝文机ノ
- 上ニ置
- 一 主人香案ノ前ニテ上香一拜
- 一 主婦以下上香一拜
- 一 執事菓子ヲ持出主人受テ机上ニ置
- 一 執事茶ヲ持出主人机上ニ置一拜
- 一 執事茶菓酒肴ヲ徹ス

- 一 執事香案ノ前ニ置
- 一 執事供物ヲ載スル机ヲ神主ノ前ニ置
- 一 執事香案ヲ供物机ノ前ニ置
- 一 但一人ヲ容ル、丈ケヲアクヘシ
- 一 執事大茅砂盤井ナトヲ香案ノ下へ居工才
- 一 執事祝文机ニ足打ヲノセ香案ノ餘ホト西
- 一 主ニ置
- 一 序坐

主人以下列坐題主ノトキニ准スヘシ

一主人神主ヲ出ス

一主人上香片木ニヲ捧テ主人ノ左ニ跪

一執事土器片木ニヲ捧テ主人ノ左ニ跪

一執事酒注ヲ捧テ主人ノ右ニ跪下ノ儀工木

一主人土器ヲ取ル執事片木ヲ持テ退

一主人酒ヲ土器ニ受ク執事酒注ヲ持退

一主人受タル酒ヲ悉ク茅砂ハ酌シ土器ヲハ

香案ノ上ヘ置一拜復坐以上降神參神

一執事小茅砂ヲ片木ニノセ持出供物卓子ノ

下ニ置片木ハ引入

一主人供物机ノ前ヘ進ム

一執事饌ヲ捧ケ出主人受テ供物机ノ正中ニ

奠ス蓋ヲ開ヘシ品味器皿ノ多少厚薄等ハ祿ノ大小家ノ有無ニ隨テ斟酌スヘシ但布衣以下ト五百石以下トハ二三ノ膳ヲ進メス

一執事二ノ膳ヲ捧ケ出主人受テ本膳ノ西ニ

奠ス三ノ膳略ス以上進饌

一執事土器ヲ主人ニ進ル丁前ニ同シ

一執事酒注ヲ進ム
 一主人酒ヲ受テ茅砂ニ少シ酌ミ又受テ片木
ニ人セ本膳ノ前ニ奠香案ノ前ニ退キ居
 ル執事酒注引入
 一祝者祝板ヲ足打トモニ取持テ主人ノ左方
ニ跪キ此ヲ讀ム了テ字頭ヲ我方ニナシ
 テ香案ノ上香爐ノ西ノ方ニ載セ才キ足
 打ノミ引入リ元ノ祝文机ノ上ニ置
 一主人一拜以上初獻

一執事干魚ヲ進ム主人受テ本膳ノ東ニ奠
 一執事新盃持出舊盃ト引替舊盃ノ酒ヲ他ノ
直ニ用ルモ可ナリ
終獻モ是ニ同シ
 一執事酒注ヲ進メ酒ヲ注シ了テ酒注引入
 一主人酒ヲ受テ茅砂ニ少シ酌ミ又受テ卓上
ニ奠シ一拜以上亞獻○亞獻實ハ
主婦ノ薦ル所ナリ
 一執事羹吸物膳ニヲ捧テ主人ニ進ム
 一主人羹ヲ受テ干魚ト引替机上ニ奠シ干魚
 一執事持テ退

一執事新盃持出舊盃ニ引替

一執事酒注ヲ進ル_ル如前替_替土_土ニ奠_奠之_之干魚

一主人酒ヲ受テ少_少シ_シ酌_酌之_之又受テ机_机上_上ニ奠_奠之_之

一拜以上終獻

一執事酒注ヲ進ム_{進ム}少_少シ_シ酌_酌之_之又受テ卓_卓上_上

一主人受テ自身机_机上_上ノ土器_{土器}ニ酒_酒ヲ十分_{十分}ニ注

シ_シ滿_滿テ酒_酒注_注ヲ執事_{執事}ニ授_授ケ引入

一主人饌_饌三ツ_{三ツ}へ_へ了_了ル箸_箸ヲ_ヲ下_下リ_リテ飯_飯盛_盛ノ上_上ニ

一_一サ_サニ立_立テ、箸_箸ノ頭_頭ヲ少_少シ_シ西_西ノ方_方ニ_ニ立_立テ

一_一一拜_{一拜}本坐_{本坐}ニ復_復ル以上侑食

一親戚以下上香家從自拜ノ香案

一_一仲入_{仲入}

一主人以下次ノ間へ退キ戸ヲ閉_閉肅靜_{肅靜}ニシテ

一_一謹_謹ニ居_居ル_ルト食_食頃膳ニ就テ食シ終ル

一執事戸ヲ開キ主人以下再ヒ序坐スル_ルト如

一_一初_初土器_{土器}奠_奠ル_ルト香_香案_案上_上ノ土器_{土器}ニ_ニ奠_奠之_之

一主人供物机_机ノ前_前ニ進_進ム

一執事湯桶ヲ進ム_{進ム}蓋_蓋ニ_ニ受_受テ本_本器_器ノ上_上ニ

- 一主人本膳親椀ノ蓋ニ湯ヲ受テ本膳ノ上ニ
- 一奠湯桶引入前ニ置ク
- 一執事土器羹饌及ヒ香案上ノ土器卜後ニ薦
- 一時座タル物ヨリ順々ニ徹ス執事坐スル下ニ
- 一執事菓子ヲ進ム主人受テ机上一ニ奠
- 一執事茶ヲ進ム主人受テ奠シ一拜請ニシテ
- 一執事茶菓子ヲ徹ス
- 一祝者利成ル卜告ク
- 一主人一拜坐ニ奠ス

- 一執事火爐火箸付木ヲ祝文机ノ左方ニ置
- 一祝者足打持出香案上ノ祝板ヲ載テ火爐へ
- 近ツキ祝文ヲ焚キ祝板ハ元ノ机上一ニ還
- シ置キ退ク
- 一執事小茅砂ヲ引入
- 一主人上香復坐此ハ神位ニ
- 一執事大茅砂ヲ引入
- 一主人神主ヲ藏ム
- 一執事祝文机ヲ引

一主人酒ヲ酌ミテ茅砂ニ傾ケ一拜以上降神參神

一進饌本膳〇ニニテ軒主ヲ出ス

一酒初獻靈座前ニ坐ス

祝文入小、ナリニ世一世ヲ祭ルナリナリ

一盤肴、主人ノリテテ其ノナリ小室ノ樽

一酒亞獻「ヤ昔ヤテ跡ノ主ヲ曾跡ノ主ニ推シ

一美汁吸物未ニ三世ノ主ハ所食ノ真ニテ置ス

一酒終獻主人ヲ祭リ木々々ノ祭ナリハ置主人

一侑食十分杯箸立テ

闔戸仲入啓戸

一菓干水三日以前ヨリ潔齊シ男ハ外ニ居女ハ

一茶、居テ酒ヲ飲マシ奉テ食ハス納メ問ハ

告利成主人拜

一焚祝文、ニ至テ祭器ヲ出シ藤キ清メ置ク

一祝者神主ヲ奉メ祠堂ニ奉安ス

一主人以下歩從日三世二世一世各其祭ル所

一安神主闔戸ヲ出シ蓋ヲ去リ一拜ノ令テ祭

一主人以下對拜蘇真祭ニ同シ

一 主以上ノ禮大抵虞祭ニ同シ

一 祭軒五ノ間

一 連ノ以下ノ世

一 祭軒主ノ奉ノ厨堂ニ奉安

一 焚ノ文

一 酒毒味必生

一 茶

一 菓

一 闔ノ人皆ノ

時祭

齊戒 三日以前ヨリ潔齊シ男ハ外ニ居女ハ

内ニ居テ酒ヲ飲マス葷ヲ食ハス病ヲ問ハ

ス喪ヲ吊ハス

陳器 前日ニ至テ祭器ヲ出シ滌キ清メ置ク

具饌 酒飯肴菓等ノ用意ヲナス

啓壇出主 祭ノ日三世二世一世各其祭ル所

ノ神主神位ヲ出シ蓋ヲ去リ一拜ノ今日祭

ヲ致ス一ヲ告ク

降神參神

進饌

初獻

亞獻

終獻

侑食

闔戸

進饌 軒主神主ノ出シ蓋ヲ去リ一拜ノ今口
初獻 出主ノ祭ノ日三廿二廿一廿各其祭ハ
亞獻 出主ノ祭ノ日三廿二廿一廿各其祭ハ
終獻 前日ニ至テ祭器ノ出シ蓋ヲ去リ一拜ノ
侑食 主婦以下ノ
闔戸 啓戸ヲ進メ饌ヲ徹シ菓子茶ヲ進
ム以上何レモ虞祭ノ式ニ同シ但シ分獻ス
ムハキ牌位アラハ初獻ノ後ニ子弟ヲシテ
ム分獻セシム

受昨

主人香案ノ前ニ跪キ執事盃ト神へ供
 シタル酒飯トヲ進ム主人受テ飯ヲ嘗メ酒

ヲ飲ム終テ執事茶菓子ヲ徹シ利成ヲ告ク

辭神

主人上香一拜 終テ執事祝文ヲ焚キ
 茅砂ヲ引

納主

忌日

主人神主ヲ納ノ一拜シテ戸ヲ閉ツ
 時祭ニ同シ受昨ナシ

祖祭二回受報十一

初日

臨主 主人軒主天降ノ一拜ノテクノ開

祭儀

齋軒 主人土香一拜 拜テ拜事祭文ヲ焚テ

天降ノ拜テ拜事茶菓子ヲ贈ニ降儀ヲ告テ

心ノ山ノ降儀ノ天降ノ主人受テ拜テ拜事

父祖ノ主人香菓ノ降ニ張テ拜事蓋十軒ノ共

土神祭祝文 七歳未満ニハ

維 母ノ名尊テハ 母ノ名ニハ 母ノ名ヲテ

□□年歳次□□支 □□月□□支 朔越□□日□□支

□□氏□□名敢昭告于

土地之神今為□□氏□□名營建宅兆神其保佑

俾無後艱謹以清酌祇薦于神尚

饗

題主祝文

維 □□年歲次□□支 □□月□□支 朔越□□日□□支

□□年歲次□□月□□朔越□日□□孤
子某敢昭告于

先考妣之靈恭惟

先考妣鞠予欲報厥德昊天罔極爰卜宅兆敬以安

厝形歸窀穸神反室堂神既成伏惟其

尊靈舍舊從新是憑是依

母ノ喪ニハ孤子ヲ改テ哀子ト書ヘシ父

母ノ外尊行ハ祖父母ニハ孤子ヲ改テ孫

ト書恭惟以下ノ五句ヲ除テ形歸云々ト

書其外ノ尊行ニハ子孫等ノ字ヲ除テ名ノ書

卑幼ニハ敢昭ノ敢ノ字ヲ除キ尊靈ヲ改

テ精靈トス七歲未滿ニハ祝文ナシ下同

虞祭祝文

維

□□年歲次□□月□□朔越□日□□孤

子某敢昭告于

先考妣之靈日月不居爰築幽宅形魄雖藏

維

□□年歲次□□月□□朔越□日□□孝

孫或□□氏□□名敢昭告于

顯始祖考

顯始祖妣

顯祖考

顯祖妣

顯考

顯妣歲序流易時維仲春秋追感歲時不勝永慕謹

以羞酌祇薦歲事尚饗

二世ヲ祭ル者ハ始祖考妣ヲ除キ一世ヲ祭ルモノハ祖考妣ヲモ除キ孝子ト稱ス

忌日

維

□□年歲次□□月□□朔越□日□□孝

子□□氏□□名敢昭告于

顯考□□氏君歲序流易諱日復臨追遠感時昊天

大和當下總等從五位上守□□守
上國相當從五位下

下野丹波備前備中備後等□□守從五

位下

中國正六位下

石見因幡土佐等從五位下行□□守

下國從六位下

淡路等

相當正六位上

主水正等從五位下行□□

從五位下

修理亮等修理亮從五位下

從五位上

兵庫頭等從五位下守□□

右ノ外何レモ此例ナリ

故國老□□氏□□俗稱□□名樞

故執政□□氏□□俗稱□□名樞

故大參政頭□□氏□□俗稱□□名樞

禮部

三十一

孺人 □ □ 氏 柩

□ □ 氏 夫 孺人 □ □ 氏 柩

大孺人 □ □ 氏 母 氏 柩

□ □ 氏 夫 婦人 □ □ 氏 妻 氏 柩

□ □ 氏 妻 氏 之 柩

□ □ 氏 舅 冢 婦 □ □ 氏 婦 氏 柩

□ □ 氏 冢 婦 □ □ 氏 婦 氏 柩

□ □ 氏 冢 婦 □ □ 氏 婦 氏 柩

□ □ 氏 冢 婦 □ □ 氏 婦 氏 柩

□ □ 氏 父 氏 長 女 柩

□ □ 氏 父 氏 第 三 女 柩

□ □ 氏 父 氏 第 四 女 柩

□ □ 氏 父 氏 第 五 女 柩

□ □ 氏 父 氏 室 女 之 柩

□ □ 氏 祖 氏 孫 女 柩

□ □ 氏 伯 氏 姊 之 柩

□ □ 氏 仲 氏 妹 之 柩

□ □ 氏 仲 氏 妹 之 柩

□□氏王姑祖姉柩父妹

□□氏姉妹之柩姉父妹

□□氏姪女之柩

□□氏姉妹之柩

□□氏姉妹之柩

□□氏姉妹之柩

新中 神主 故□□守從五位下□□姓府君諱□□字□□號□□神主

粉面 故□□守從五位下□□姓府君神主

餘面 位署ノ式前ニ同シ

新中 隱居名ハ號□□ト書粉面ハ官ノ下
餘面 入□□號□□氏府君ト書キ位ヲ省ク

毛可ナリ
神主ノ背□□俗稱君諱□□名父ノ第□

子年月日卒ト書又略制ニテ陷中ナキ

毛ノ八右ノ如ク書キテ死者ノ諱ヲ毛
書ヘシ此以下皆同シ

陷中 故國老 稱俗 府君諱□□字□□號□□神主

粉面 故國老 稱俗 府君神主

陷中 故參政 稱俗 府君諱□□字□□號□□神主

粉面 故參政 稱俗 府君神主

陷中 故大番頭 稱俗 府君諱□□字□□號□□神主

粉面 故大番頭 稱俗 府君神主

陷中 稱俗 氏君諱□□字□□神主

粉面 稱俗 氏君神主

陷中 氏孺人□□氏神主

粉面 氏孺人□□氏神主

陷中 氏夫人□□氏神主

粉面 氏夫人□□氏神主

陷中 氏婦人□□氏神主

粉面 氏婦人□□氏神主

陷中 氏妻□□氏神主

粉面 氏妻□□氏神主

陷中 氏孺人□□氏神主

粉面 氏孺人□□氏神主

陷中 氏夫人□□氏神主

粉面 氏夫人□□氏神主

陷中 氏婦人□□氏神主

粉面 氏婦人□□氏神主

陷中 氏妻□□氏神主

姑姉妹室女等皆此書法ニスヘシ

召出以上

室女阿□□名神位

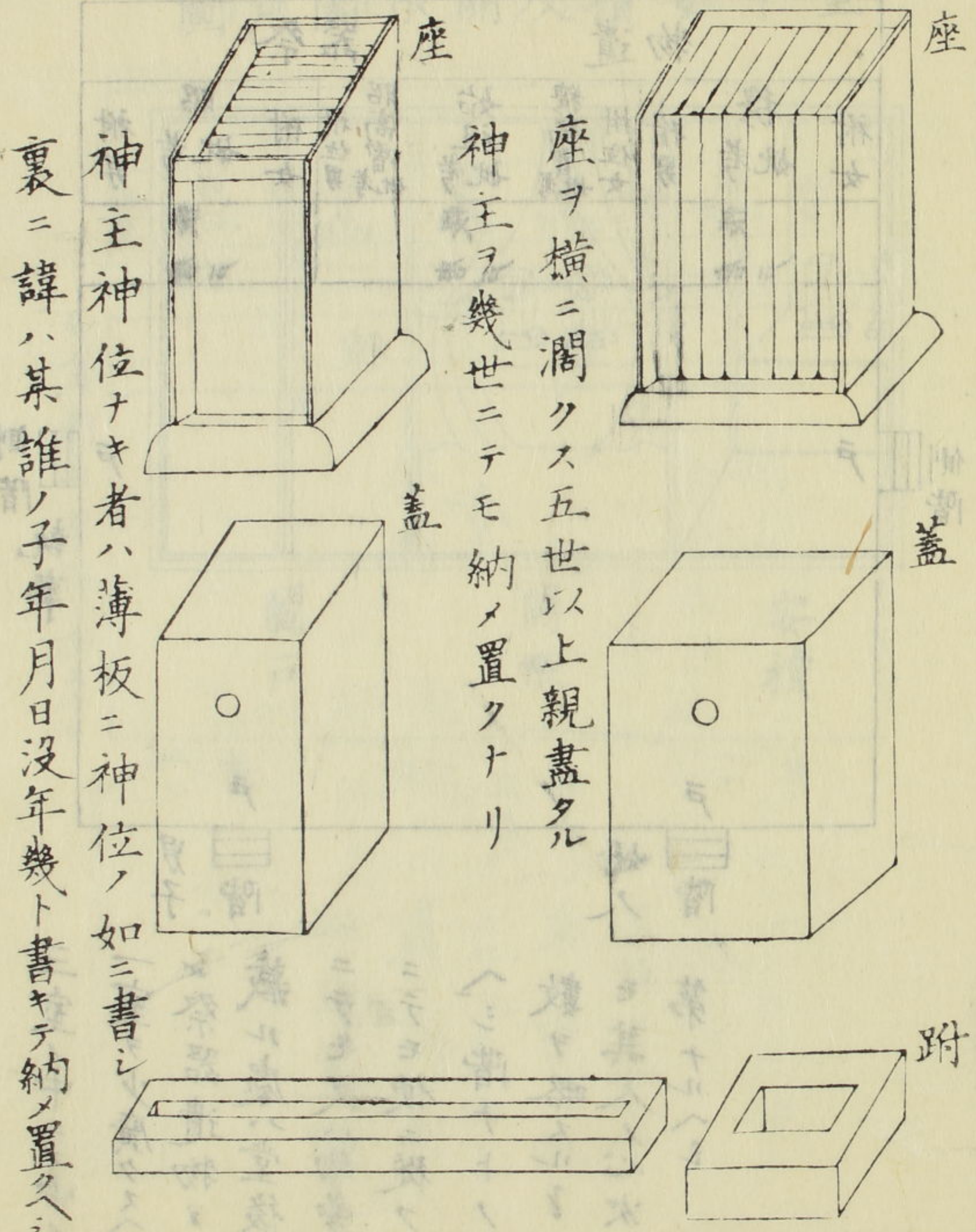
室女阿□□名神位

室女阿□□名神位

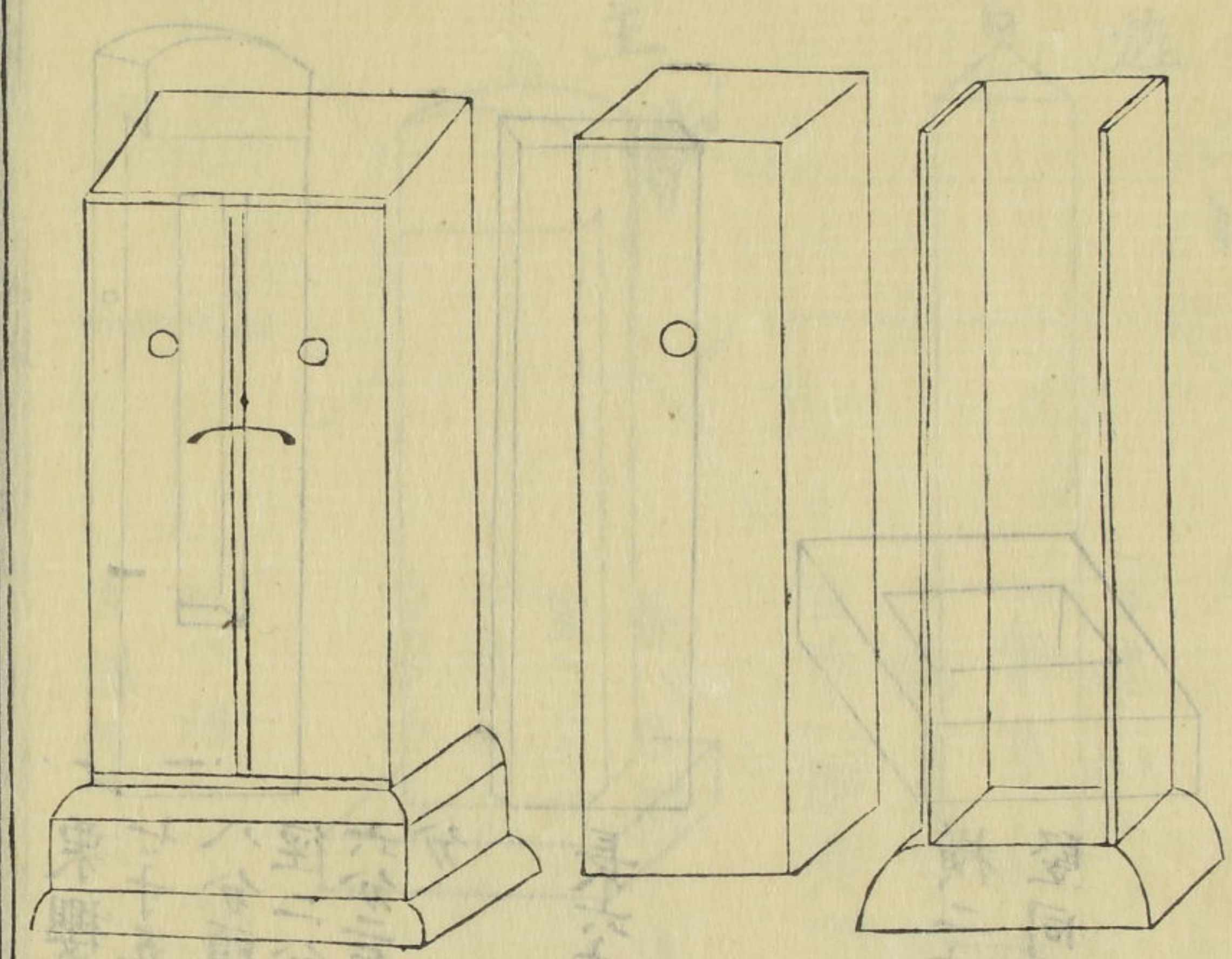
室女阿□□名神位

室女阿□□名神位

圖牌藏 圖主遷藏

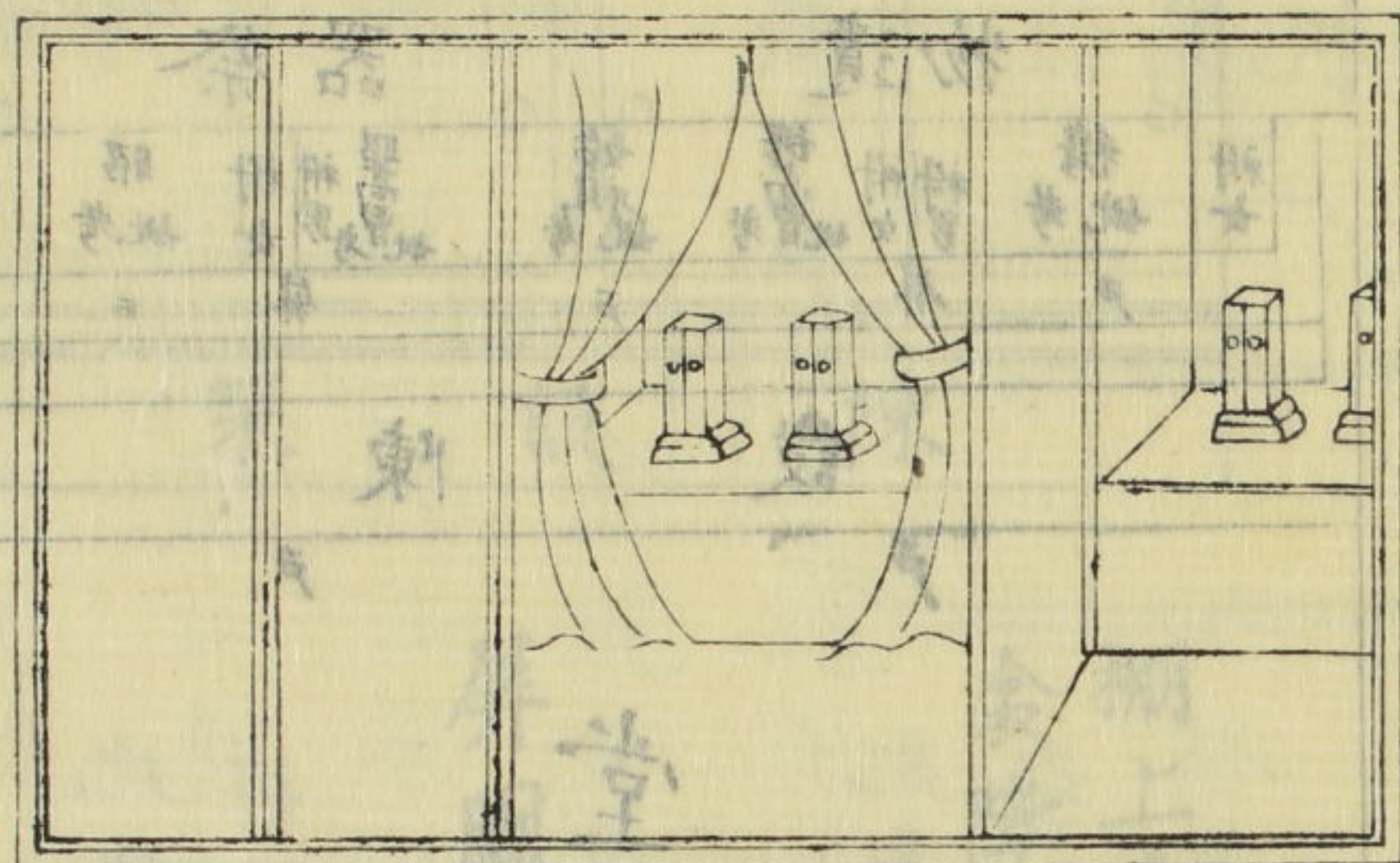


圖中 櫃 保 蓋 座



此櫃ハ神主ノ位ニ納メ置クハシ
蓋ハ神主ノ位ニ納メ置クハシ
座ハ神主ノ位ニ納メ置クハシ

室中安壇及開帳圖

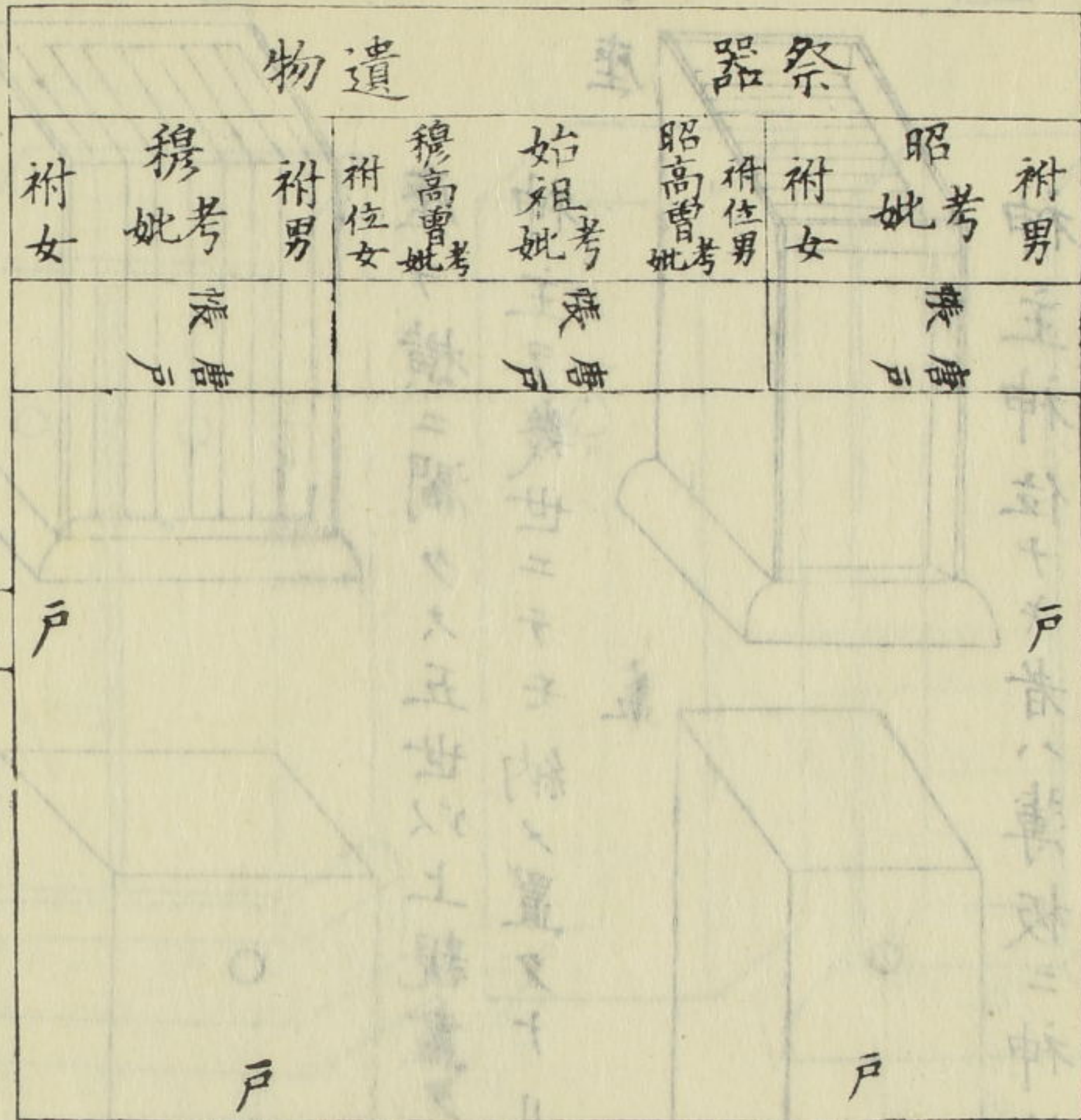


安壇 開帳 闔戶

自食刺干等...

開帳 東西各一畝... 祭器置...

祠堂祭三世世圖



側階

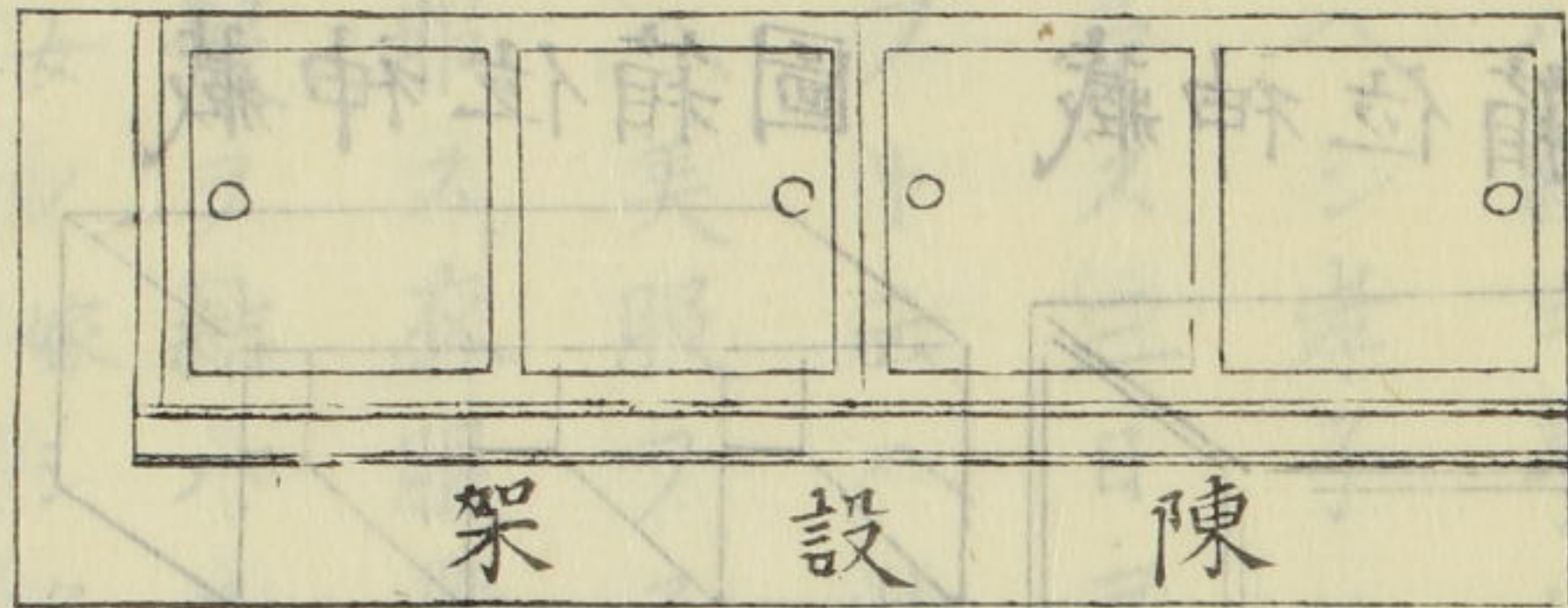
側階 執事

婦人階

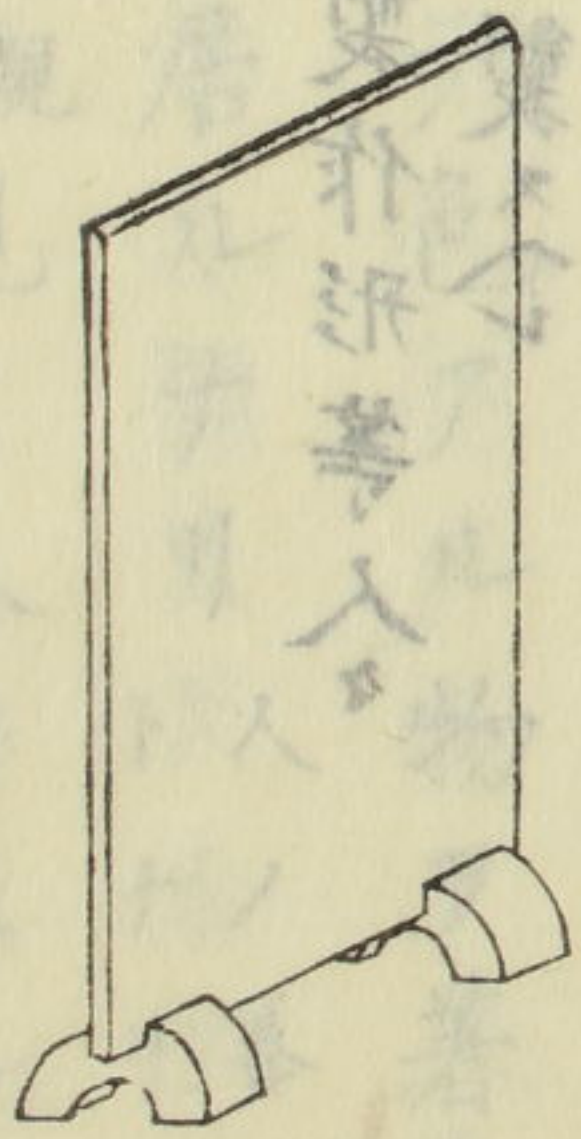
男子階

三室ノ中ニテ中ノ一室ヲ少廣クスヘシ祭器遺物ヲ藏ル處ハ堂後ニテモ又ハ兩旁ニテモ便ニ從フヘシ階ナトノ數ヲ略スルモ其人ノ心次第ナルヘシ

棚上闔戸圖



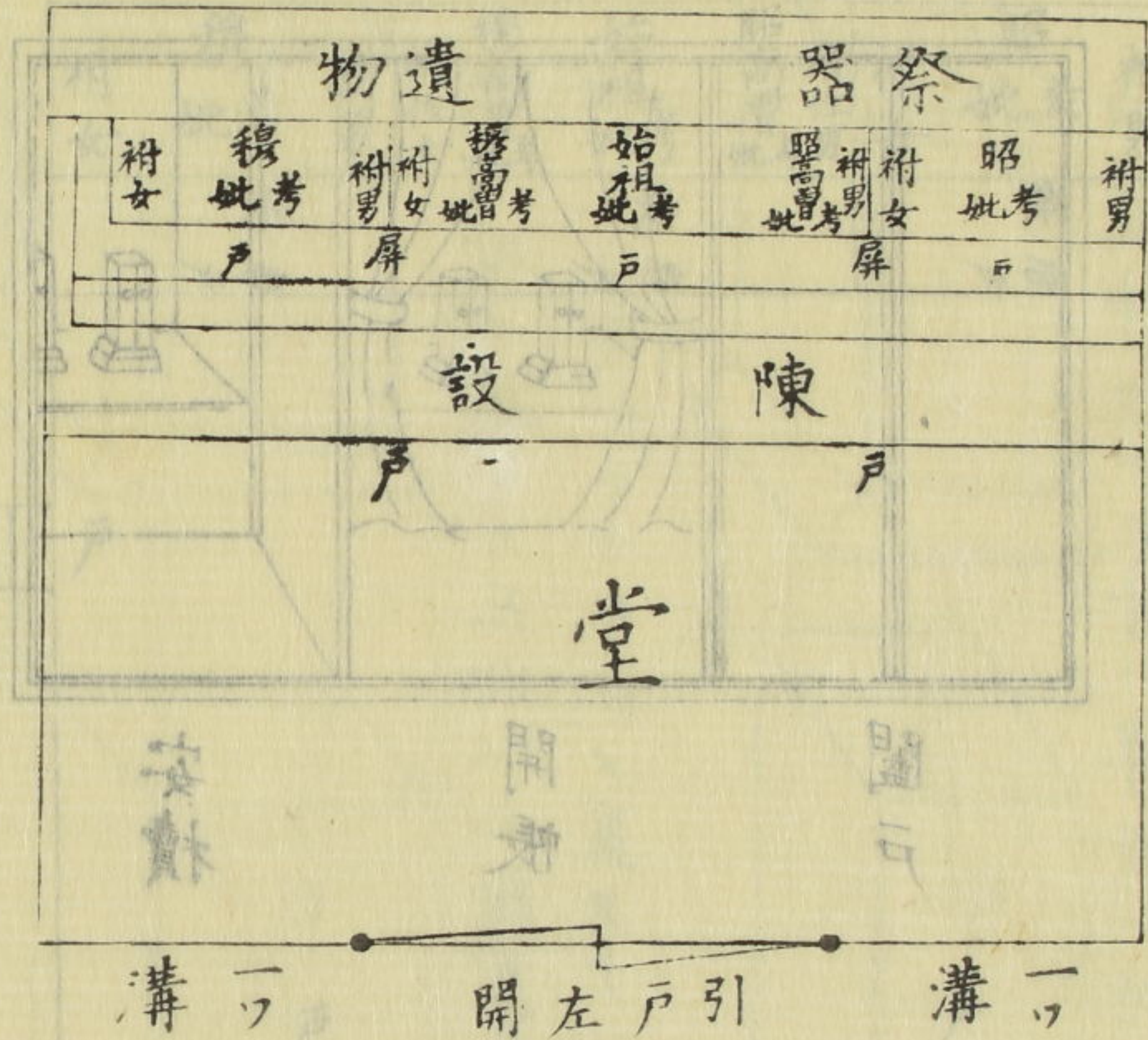
屏圖



薄板ヲ以テ作ル踏ノ形ハ好ニ任スヘシ

棚上ノ戸ハ内外トモニマイラ戸鏡戸
衾障子ノ類其人ノ心ニ任スヘシ

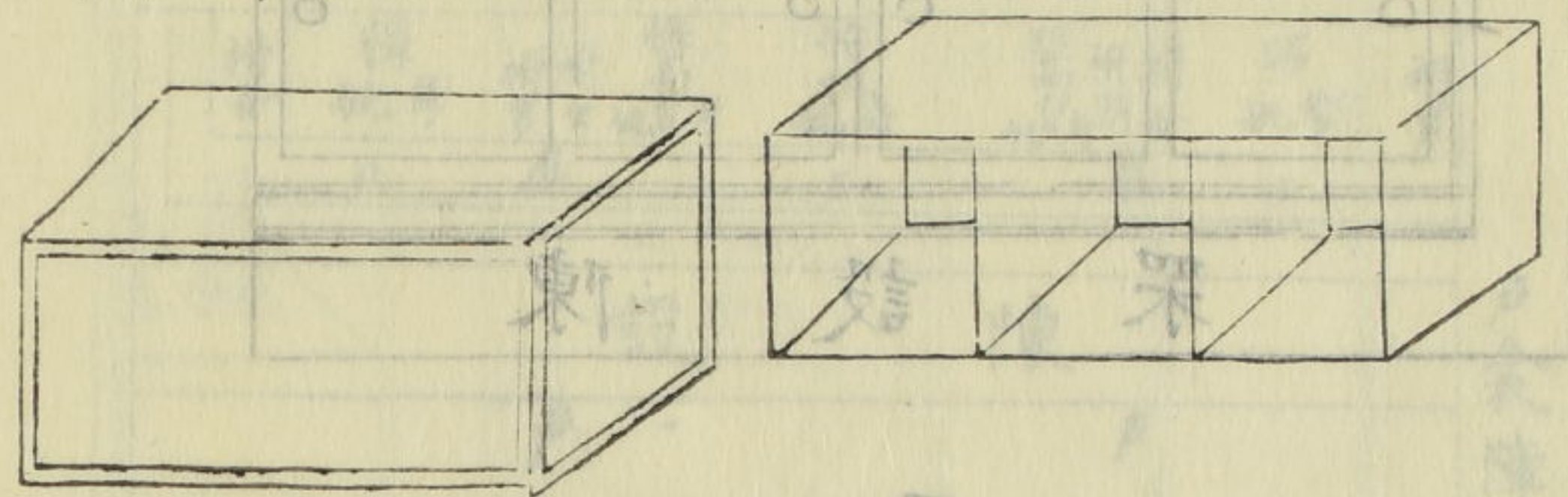
祠堂設棚圖



戸衾障子等好ニ任スヘシ

祭器遺物ヲ藏ル處ハ堂後ニテモ東西ニテモ東カ西カ一偏ニモ便ニ從フヘシ

藏神位箱圖 藏神位箱机圖



此箱ノ製作形等々々
好ニ任テ製スベシ

此臺六箱ニ作テ背ニ戸ヲ設ケ
祭器等ヲ入レ置クモ可ナリ

喪祭大意

一喪ハ親ニ事ルノ終ナレハ心ノ儘ニ哀ヲ盡
スヘシ孝子ハ其哀ニ深ケレハ食事モ咽ニ
下ラス三日ヲ過キテ近隣ノ介抱ニテ粥ヲ
食フト云ヘリ親ノ身ヲ土中ニ埋ルヲ哀ム
ユヘ美服ヲスルニ忍ヒス喪服ヲ製シテ是
ヲ服ス衣服帶ニ至ルマテ色アル物ヲ著セ
ス髮ヲ結ハス徒跣ニテ居ルナリトナリ又
ハ女ノ嫁シタル者ハ私親ノ外ニ在ルヲ
ノ為ニハ被髮徒跣セス

思フ故ニ倚廬ト云テサシカケノ假屋ニ居
 テ若ニ寢子塊ヲ枕トシ帶ヲ解カストモ云
 へハ居處坐臥モ其心得アルヘキナリ又哀
 ニ沉タル身ノ人事ニ與カルヘキニ非レハ
 萬事ヲ人ニ頼テ喪事ノ外ハ物ヲモ言ハス
 吊者ニ對シテモ拜謝スルノ令ニテ言語ニ
 及ハス吊者モ問フコトアラハ親戚近隣ト
 トノ座ニアル人ニ問フヘシ主人ハ萬事ヲ
 抛テ棺槨衣衾葬地等ノ一ニノミ心ヲ盡

スヘシ一生ニ一度ノ事ナレハ哀ヲ盡スノ
 外他事アルヘカラス葬終リテ未夕神主ヲ
 祠堂ニ遷サ、几間ハ毎日奠ヲ設ケテ葬ラ
 サル以前ノ如クニ哀ヲ盡スヘシ古ハ士ハ三月ニシ
 テ葬ルエハ既ニ葬テハ卒哭ナトノ禮アリ
 テ哀情一段薄クナルトナレトモ今ノ俗ハ
 速ニ葬ル故既ニ葬ルトテモ卒哭モナクシ
 テ可ナリ其哀情ハ葬ラサル時ト同シカル
 ハキ服未夕除カサル間ハ慶賀ヲ行フヘカ
 ラス又人ノ喪ヲ吊フトモ己カ哀ヲ捨テ他
 人ヲ哀ムハ孝子ノ情ニ非ル故父母ノ喪ニ

ハ慶吊トモニ行ハス已ムトヲ得サル事ニ
非レハ猥ニ他出ヲモセスレテ家居スヘキ
ナリ

一葬ヨリ歸テ虞祭ヲスルハ祭ノ始ナリ死者
ノ形ハ土ニ歸リ魂氣ハ天ニ散スレ氏子孫
ト同體一氣ニシテ己力體ハ子孫トナリテ
遺ルナレハ其魂氣モ子孫ノ身ヲ離ルヘカ
ラス是ニ因テ葬ハ形ヲ送テ往キ精神ヲハ
迎ヘテ家ニ歸リ祠堂ニ棲マシメンカ為ニ

神主ヲ制シテ神ヲ寄スルナリ虞ハ安スル
ノ義ナレハ形ヲ墓ニ藏メテ其魂氣ノ遊散
スルヲ留メ置キ室堂中ニ安ンセシメント
テコレヲ祭ル是其親ヲ祭ルノ始メニシテ
是ヲ終身親ヲ祭ルノ本トスルトナレハ題
主ト虞祭トハ尤モ敬慎スヘキナリ
一祭ハ敬ヲ本トス孝子ノ心死ニ事ルト生ニ
事ルカ如シ生時ニハ日夜朝暮ニ孝養ヲ盡
セシニ没後ニ至テハ父母ヲ享スルモ一年

ノ中僅ニ四度ニ祭ノミナレハ幾重ニモ大
切ニ又父母其所ニ在スカ如クニ思ヒ聊疎
略ナキヤウニスルハ敬ナリ敬スレハ親ヲ
思フノ心誠ニナル故神モ其誠ニ感メ祭ヲ
享クト云ヘリ祭ハ器物ヲ陳子拜禮ヲスル
ノミニ非ス誠敬ナケレハ祭ラサルニ同シ
故ニ祭ノ時ハ存生ノ父母ニ給仕ヲシテ膝
下ニ歡ヲ盡スカ如クニ思ヒ其誠敬ヲ盡シ
テ鬼神ト交ルヘキナリ

一祭ハ孝心ハ默止シ難キ人情ヨリ出ルナリ
孝子ハ身ヲ終ルマテ孝養ヲ盡サント思フ
ナレハ其親死シタリハ其孝心ノ已ムヘキ
ニ非ス因テ其魂氣ヲ留メ置テ毎日ニモ祭
ント欲レハ數々スレハ瀆ル、故時日ヲ以
テ祭ルナリ四時ノ移リ變ル毎ニ時物ニ感
スルハ人情ナレハ父母ノ平生ヲ追思メ哀
慕ノ情中ニヨリ發ス是ニ因テ春夏秋冬ニ
祭テ孝養ノ心ヲ伸フ是ヲ時祭ト云ナリ忌

日ハ終身ノ喪ナリ孝子ノ哀情ニ因テ喪服
ヲ服シ其情ノ盡クヘキニ非レバ時月ノ限
アルハ喪服ヲハ除クト雖凡其思慕ノ情ハ
盡サル故古ハ忌日ニハ素服シテ日ヲ終ル
ナリ然レハ其日ハ居喪ノ時ノ如ク雜事ヲ
捨テ吊賀ヲ停テ哀慕ノミ專トスヘシ
一祭ニハ齊ヲ大事トス齊ハ汗穢ニ觸レス身
ヲ清潔ニスルナレ是ノミヲ齊ト云ニ
非ス古ハ散齊七日致齊三日トテ七日ノ間

潔齊ニ三日ニ入テハ内ニ居テ外ヘモ出テ
ス前日ヨリ心ヲ專ニメ誠敬ヲ盡スナリ故
ニ齊スル時ハ病ヲ問ハス喪ヲモ吊ハサル
ハ其心ノ他事ニ移ラサル爲ナリ只其心ヲ
專ニメ親ノ平生ノ容貌言語ヨリシテ其志
意嗜好ヲモ思ヒテ今日膝下ニ在ルカ如ク
ニ我心ヲ以テ思ヒ成スヨリシテ其音容ヲ
耳ニ聽キ目ニ視ルカ如クニナリ其上ニテ
祭ル故誠敬ノ念モ生シテ神モ感スルナリ

因テ祭ニ誠敬ヲ盡スハ全ク齊ノ中ニ誠敬
 ヲ蓄ルヨリ生スルナリ然ハ祭ニ疎略ナカ
 ラント欲セハ先齊ニ疎ナキヤウニ不ハキ
 ナリ

喪祭式附録

郷中喪祭大概

一喪をえと訓むるはおもひと以て不致畧せる
 なり孝子れ心にて其親に身成終るまで孝
 養を法くさんと欲すれども忽ち其心も空
 しくなるゆへ哀ておもひ慕ふの儀なり故
 にいにしへを苦に以て收塊を枕にすとして親
 れ身と土中と埋むる故葺さげの如き所に

居て夜も安く寝る事なく甘きを食志て甘
 からにさて親への酒肉とすくむれども其
 身もかなしみの切なるゆへ酒肉の勿論甘
 肥物さへ食ふに忍びず僅に粥をすくりにて
 性命を保つ事おれ孝子の至情もおもひ慕
 ふれ心やみがとさゆへに形をむ墓に蔵む
 れども魂魄と迎へて家に帰る祭をして生
 けるお如くに事ること其喪祭れ大意なる
 人死をれ別れ一つの快樂困苦れ所に往

き他物に化生すると思ふは惑也眼前れ天
 地の外に世界といふな死事なる萬物天
 に本流き人は祖よ本流くと云て父母先祖
 れ氣血骨肉を分けて子孫となる子孫の身
 はすなわち父祖れ身なれむ死を望いへや
 色死せずして氣血骨肉の永くつきるおと
 なく一家れ中にさびまぬな也他物も化
 生するの理あるべあらに稻の種の稲もな
 り麥れ種も麥となる事衆人れ知る所なる

人此種の人となるも又この道理なれを知
 たる道に迷ふべからば萬物の生るるおと
 天地の氣を請て魂魄となる死する時は魂
 魄身體をまなれて天地に歸る其遊散する
 哉留めんのため神主位牌を制して其神哉
 こ免置なり親れ魂魄はきる事なく永く其
 家に在て子孫の身につ記せやひ子孫を守
 りて福をも降せべき道理なきは死者も孝
 子も其心よおゐてやすきよあらばやされ

一 其一人なき後にも精神ハ世にならへ
 て孝子の祭哉享く應き事必疑ひ阿るべか
 らば
 一 生死此別れハ身の内ハ一度此事なれば他
 事に心を奪はれずしておまふまゝに哀み
 をはくし又葬里にも後悔なきやうに心と
 つくすべし世俗の習をくして他人に飲食
 の馳走をせんて哀みと忘るゝは不孝に
 當るなり親類近隣などの中にて事なれた

る人に萬事をまゐせ置き喪主ハ葬見此事
にのみ心を委ね居座きなり

一 初終の事

病者命終らむ尸此見へざるやうにかまひ
内外致静にまべし次に其人常に用ひたる
器物小て食物を薦むべし

一 入棺の事

棺ハ送葬第一の品なれば随分念と入堅固
に座座し

但寐棺坐棺勝手次第雨障子も用ゆ座か
ら

一 上下免許の者は上下致着せ其餘を羽織袴
を着せべし

但尸へ掩ふも時宜次第なるべし沐浴の
禮あれども巾にて面を軽く拭ひたるれ
みにて可なり

一 脇指形を竹にて作棺に納む座し

但脇指は竹よて其形れみをまゝらへ細

工を用ゆる小及ばず帶刀免許此ものは
 刀をも同やうに屯べし又物ハ用ゆべか
 らに剃髪すべからば杖草鞋等金錢其外
 かな物類一切入庫あらば白米をあらひ
 一つまみ紙に捲くみ口のほやまに入る
 庫し

一棺此前に其人此脇指と着服の又ち懐中物
 などの類よて一品おくべし飯酒菓子茶此
 類なによても薦むべし

但六合花菓子花檜なご此類用ゆべから
 ば白布よて銘旌の形よして姓名を書付
 棺の前におく事心次第なり

□苗字 □俗名 □名 柩と書下しに認むべし

一位牌を作し姓名と書き棺の前よ置き祝文
 をも書く庫し
 一何村誰何年月日死去何歳何の所へ葬ると
 いふ事を書き付け庄屋此印形と押し親類
 の内へ五人頭付きをひ鎮守社職の方へ持

參氏子帳へ其通り書付くべし

一人をつゝのりて墓地を見立て其所より酒を
少し注ぎて拜禮をべし是ハ此墓を長く守
りたまへと土地の神より祈るなり其上にて
穴を掘る處し

一出棺の事

出棺の前に喪主死者の位牌を先祖の位牌
の前よりち行き暇乞をして焼香一拜し次
に家内此教をとして墓所へ行らざる者は

棺前より焼香一拜して暇乞をすべし

一出棺の時ハ棺の前に位牌香爐を持せ行き
穴の側へ棺を居へ位牌香爐をおき其前に
て題主此祝文を讀み喪主以下いづれも焼
香一拜し棺をおろし祝文を焼き土を覆ふ
べし

但位牌ハ親類の内にて持へし祝文を讀
む人なきと祝文書たるまゝにて備へ置
もよろし又ハ出棺の前宅にて祝文をよ

一 位牌をかま墓所へ持ゆくも又ハ宅
 一行のさるも時宜次第なるべし出棺の後
 塩をふり家中掃除する事また喪主歸
 宅此時酒にて清むる事いづれもいふ
 香爐からに墓所ハ花櫛等立る事も無用也
 一 當坐に神の葉ハ苦くからに
 一 位牌を喪主ハ先に持せて家に帰り飯酒を
 薦め虞祭の祝文をよみて焼香一拜して家
 内の是れ續て拜し次に菓子茶とをむべ

一 但祝文を書たるまくにて備置も時宜次
 一 第なるおのそなへ物ハ虞祭ハ心を畧せ
 一 也虞祭といふは死者の魂魄と安から
 一 志むる義なる死者ハ形を土中小おさめ
 一 てハ其魂魄依る方なきゆへ是を位牌に
 一 うつして家に帰りて子孫ハ側ハ安く棲
 一 ましめんハ為小祭る也父子ハ同氣一體
 一 にして父子と其本ハ一身なれむ人死

すれども魂魄は子孫此身をとまなれず是
 に仍て魂魄を墓所より迎て家に帰り長
 く其所に棲しめんその儀にして其靈を
 神になして祭る此をいめなれむ至て大
 事なりと知るべし

一是より位牌を床の間など此処へ置き忌中
 は毎日膳を備へ拜すべし

但四十九日餅を舂く事無用なり

一忌明の朝飯酒菓子茶をまゝめて家内の之

此拜禮する事前の如し

但忌明後ハ位牌を新しき箱などへ納置
 毎日拜し小祥此後先祖の位牌所へ納む

一葬後ハ尤も小家貧窮などハ忌明此朝直に
 位牌所へ納るも時宜による處ハ此時遷
 主此祝文と讀む事も其人の心次第なり

右ハ其家の主になりたる者其妻と葬
 る時の大概なり其外の色此ハ時宜次第に
 差略し七歳未滿ハ格別ハ軽くせべし

禮節

は貧富に随て詳略ある事已む事を得ざれどもおのれが哀みをつくり形を蔵め神を迎る此意にかゝる事あるべからば

但家主死する時も貧富よよ差畧する事の時宜次第なるべし

一葬終る時ハ神を迎て家に歸り是よ里終身思ひ志たひて祭禮を行ふべき事なれども庶人ハ薦して祭せずといひ又庶人ハ寢に祭るといふ事もあれば客座志きなどにて

まつり其禮式をも畧して品物を薦め唯其誠敬をつくすべき也其家ハ貧富にもより又ハ家作の廣狹大小等も一やうならざれば位牌品物等おのこゝ差略有て其宜に従ふ處一其心に思ひ慕ひて終身忘るゝことあきを親と祭るハ本意なりと志るべきなり

但此べての事士族よまぎらむしからざるやうに志べし位牌所等いつまの形に

作る事も各其便利に従ふべし座鋪の内
 へ棚たなを設るとも戸衾障子かきまたるい何にて
 も好このこにまかせ一重ひとへよすべし二重ふたへに作る
 座ざのらば
 一位牌ハ常此如く作り姓名を書座ざ父母の
 位牌いはいとハ専まから是を祭里祖父母以上ハ畧りやく
 て祭るべし
 一二月八月父母此位牌へ料理の饌せんを薦すすむべし
 但春分秋分の日をよしとす此外此日に

ても時宜次第なるべし
 備物ハ一饌五品俗に膳切といふ飯汁香の
物と坪平鱈焼魚煮魚等此
 内小て一品都合五品
 なり引落しなり
 但五品よ里少きハ苦くしからば
 一肴一皿よ盛りたるのみ也
 但肴を別小をこめざるも苦くしからば
 酒ハ一獻いんなるべし菓子茶と薦すすむる事心にま
 かすべし祖父以上を惣もて束ねつるにして一饌
 と薦すすむむるも又ハ父母と一同に束ねつるよ

るとも宜きに従ふべし

一 忌日に父母ハ右の如くに薦むべし祖父母

以上ハ品數を減じてまゝむる節句などの如くに

てもよ

一元日かみもち鏡餅雜煮酒田作り等を薦め二日三

日に雜煮を薦る事心よ任す處し

一 五節句歳暮せまぼに其時の品を薦め酒菓子茶と

薦る事心次第なり時まじの品ハ七種粥かきの類な

りよ

一 毎月朔日十五日に洗米菓子茶などを薦る

事心次第出来合の飯にてもよろし

一 父母の好たる品到来せば自ら食せざる以

前薦むべし田畠たはに出来たる品ハ初穂はつほと

りめて精農せいのうを告げ父母を悦よろこむべし漁ぎよ

民等も此こゝに准まず

右庶人祭薦さかの大概おほなり貧富よ差畧さあ

るべし右より軽かろきハ苦くるしおらに重おもくして

大夫士の禮らいを犯かすべからば祭の本もとハ己おのれの

一家の主になりたる者此妻其外目上の者

□ □ 妻の氏牌位

裏書前の例にて書べし

一子弟并に其外目下のもれ

□ □ 苗字 俗名 牌位

一娘并其外目下の女子

□ □ 苗字 名 女牌位

裏書いづれも前此例なり

墓碑 碑石ハ二尺以下一壇
院号等書べからば

一家の主になりたるもの其外目上の者

片書よ

□ □ 村町い □ □ 町と書すべし 此一行小字
に書べし

□ □ □ □ 翁墓 此一行い大
字に書べし

少壮の子と書す

名 □ □ 名乗あるもの如此名 □ □ 父名但し
乗なきは書し及ば 父名乗あ

べし 子 □ □ 年 □ □ 年 □ □ 支 干 □ 月 □ 日 没 □

歳と書べし

但村名町名の下へ年寄大山守横目庄屋

組頭十人組頭小山守江守等役名と書べ
退役たいやくのも此ハ役名此上へ前ニ書べ

一家の主ハ妻其外人の妻となりたるは此

□□村又ハ□□町

但小字

□□夫の妻□□妻の氏墓

但大字

一子弟并に其外目下の者

□□村又ハ□□町

但小字

□□苗字俗名墓

但大字

一娘妹并に其外目下の女子

□□村又ハ□□町

但小字

□□父の氏□□名女墓

但大字

何れも裏書前の例なり

但耕作之後ハ日數七日過ル得ハ不苦ル
且親類之内忌服有之もの不幸之節ハ手

一又借ハ儀勝手次第

一不幸之節親類怨意近隣等寄合ハた一借

ハ己も食事等指出中間後悔品貫清ハ己も

追て餅等贈中間後ハ凶事之付實意を以て

助け合ハ儀ハ相互之受以有之ハ間愁傷之

中よて飲食等馳走に相成又ハ贈物之酬等

取請可中筋無之ハ間向後村之堅く中合手

喪借子死越ハ己も喪家ホてハ吞湯差出ルの

みにて茶菓子た里己も一切さし出中間後

ハ

一新葬之節た己へ見送のも此葬穴まで死在

ハ己も其之の共よまのせ喪主引取不中土

を覆ハ儀相漏ハ上引取可中ハ

一出棺後又ハ葬式相すみ帰宅之節清めと唱

へ以て塩酒よて被やうの後致間後ハ題主

虞祭此意味中く己相心得人情と不尖ハや

う可致し
 一年廻法事之後ハ一切ハ多ク中間表ハ歲月
 子感ト遠ト追ハ人情の實ニハ間三年七年
 十三年二十五年百年二百年なご此節酒飯
 菓子等相薦め迫き親類等相招ぎハ儀ハ不
 苦ハ
 但村役等中付格式褒美等屯べて祝ヒ事
 有之節ハ先づ位牌ハ備へ物可致シ

喪祭式終

右喪祭式一卷天保年間
 烈公命史臣 刑定將上梓未
 果而致仕
 今公繼紹乃刺於學使國人
 有所矜式焉慎終追遠禮之
 尤大者庶幾使民德歸於厚
 矣明治己巳春三月

喪祭式

美即出子子春三月

式大者無幾射刃斯疆沐

首神領左肅射然進射

今心器氏既沐學射國

果飾冠卦

然必命史出既安樂上

式費祭左一卷天卦羊間

